

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員と共に考えた理念を玄関に掲示しており、それに基づく実践を心がけている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍によりまだ完全には復活できていないが、ペットボトルキャップやベルマークを細々と続けている。	今後はボランティアで中学生が来てくれることも再開されるようなので、車いすの押し方なども学んでもらいながら機会を活かしていければよいと思う。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	対面会議を継続しており、日頃の報告のほか、出された意見をまとめて町に要望書として提出したり運営に活かすよう努めている。	前年度の会議を活かした外部評価でだされた意見をもとに計画書を変更したり、防災について意見をまとめたりして活用されていると思う。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ対策から日頃の実情まで、役場担当者ともこまめに連絡をとるよう心掛けている。	日頃から窓口へも足を運び、連絡会等へも参加して関係を築いている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中施錠はしておらず、身体拘束も行っていないが、ご家族同意を得て転落転倒防止の目的で行っている対策などについて、身体拘束との違いや目的について全体の理解を深める必要がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんど	身体拘束適正化のための指針の下に話し合い、近年、身体拘束は行われておらず、玄関の日中施錠も行っていない。 見守りのための応用的対応について身体拘束との関係性についてさらに具体的なイメージを持った理解を共有することを期待する。い。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	明確な虐待は認められていないが、互いの価値観の違いから言葉の選び方や対応に少し課題があることがあった。今後の課題として頻度を増やして取り組む必要性を感じた。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修などは引き続き行われ、職員の意見が表明できるよう努めている。言葉遣いや表現の仕方に課題を感じるのであれば、ロールプレイングなどの研修を取り入れる等さらなる取り組みの充実に取り組むことを提案する。
	7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現在まで権利擁護や後見の支援を必要とする方がおられず、学習の機会がないままである。優先順位としては高くないが機会があれば取り組んでいきたい。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前や申し込み時にはできるだけ細かい説明を行うように心がけている。途中の変更等についても、文書や面談を使って事前の説明を心がけている。			
	9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議は全家族に案内を出し、意見を聞く機会としている。外部評価時の家族アンケートもと、職員外によるとりまとめを反映できるようにしている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年に2回希望者家族との面談の機会を設け、意見や要望を聞き、可能な限り対応している。本年度よりホーム独自で家族アンケートを無記名で行い、対応への不安などを拾っていく取り組みを開始した。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年に数回個別面談を行う他、ミーティングでも職員の意見を聞くよう心掛けている。意見の反映が分かりやすくなるような取り組みは課題を残す。			
	11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調や家族の状況などにも合わせて勤務に配慮し、サービス残業などがないよう努めている。代表者と職員のコミュニケーションの頻度はもう少し増やす必要が感じられる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者はミーティングや業務を通じて職員の想いや不安、意見を聞いている。話しやすく相談しやすい職場づくりに努めている他、研修、希望休も配慮している。職員の腰痛予防としてリフトレンタルなど環境改善にも積極的に取り組んでいる。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の個性や日頃の思考、行動を把握し、それぞれにあった研修を受講するよう勧めている。資格取得に関しても費用助成、スケジュール配慮など行っ て支援している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍のため web 研修を中心に、段階を踏まえた研修を受けられるようにしている。 内部研修は毎月のレポートをベースにミーティング等を通じての振り返り他、必要に応じて個別指導している。新人はOJTにより安心感が得られるトレーニングができています。シフトも無理がなく完全週休二日がほぼ守られ、突発休も対応している。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者やケアマネは機会があるが、その他の職員が参加する場面は確保できていない。機会も少なく、今後の課題である。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	可能な方とは一緒に家事を行うなどしているほか、入居者本人同士が個人として交流を深められるような声掛け、席の配置など工夫をしている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍であっても、可能な限り面会を受け、家族との関係保持に努めている。行きつけの美容室に通っていただくなど、個別の支援も継続している。	家ではできていなかったことも再開できたりしている部分もあり、今できていることを家族と話し合いをしながら継続していけばよいと思われる。		

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	共同生活の場としての流れの中にあるが、無理強いせず対話の中で意向を伺いながら自由に過ごして頂けるよう心掛けている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	昨年度の評価時に課題として挙げたチームでの計画作成ができる書式に変更し、ご家族や医療関係者の意見なども取り入れたのちに計画書が完成するように変更した。	終末期についても含めた新しい様式になったことで、家族が話し合うきっかけを作ることができて良かった。家族間でも意見が異なることや、情報が違うこともあるが、これによって相違を見つけやすいと思う。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない
	18	個別の記録と実践への反映	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	怪我など身体的な異変を認めた時に、部位がわかりやすいようスタンプを購入して図で示すようにするなど改善を継続している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人一人の喜ばれることを各担当が考え実行する個別支援、ご家族に代わっての通院支援など行っている。既存の考え方にとられないよう努めている。	家族との連携を図ることでニーズを把握し、より生活しやすいよう柔軟な支援に努めていけばよいと思う。	
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナの影響はまだあるが、車いすのまま利用できる外出や地域の保育園への避難訓練などを行った。	まだコロナ対策の影響があり、自由にはいかないところが多いと思うが、可能性を見つけて取り組んでいけばよいと思う。	
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医への受診や訪問診療の支援、専門科への受診を継続し、適宜家族にも報告して適切な医療が受けられるよう支援している。		

22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時の説明には可能な限り立ち会い、ホームでの生活が継続できるようイメージをもった入院生活が送れるよう支援している。サマリーも翌日までには届けるよう努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	救急搬送や入退院時、職員ができるだけ立ち会うようにしている。入院時のサマリーでは、日ごろの生活を伝えるとともに、ホームにスムーズに復帰できる支援をしている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居後初回計画書交付時までに指針を説明し、家族面談時にも希望を確認することになっている。新しい介護計画に家族の言葉で終末期の希望を記入できるようにした。希望があり、調整がつけば今後も最期までの支援を続けていきたい。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後は現場職員が入退院調整に関わることでよりケアのイメージがしやすくなり、学びが深まることが期待される。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年に二回は消防署の方による講習をホームで開催している。スケジュールを調整して順次救急救命講習Ⅱの受講を進め、応急手当について学ぶ機会を得ている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	避難訓練の内容に職員の意見を反映しつつ充実をめざしているが、地域との協力体制については困難が多い。運営推進会議でだされた福祉的避難所の充実についての意見を町長宛の要望書にまとめるなどの取り組みを行った。引き続き関係者や町との協議を続けていきたい。	一年を通して話し合ってきたが、今後も継続して対応を考えていく必要があると思う。 さんぼみちだけでなく、他の事業所や自治体等の関係各所、家族と繋がりながらさらに体制を築いていく必要がある。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域特性からなる課題は引き続き存在するが、年間を通じて運営推進会議で話し合うなどの取り組みはあった。 災害については大きな課題なので、今後はホーム単独での検討を超えて外部への働きかけを強めて充実させることを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	尊厳を傷つけない言葉かけ、人格否定をしない対応に努めている。関係性ができると砕けた表現になりがちなので、今後も注意して取り組んでいく。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ミーティングで話し合い、内部研修で学びプライバシーを損ねない、尊厳を重視した声掛けを意識付けている。現場で気になる対応については管理者が指導する他、家族アンケートや面談等で率直な意見を聞く機会を設け、改善につなげる努力をしている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別にその日ごとの希望を叶えることは不可能であるが、共同生活の場であることを理解して受け入れておられることで健康が保たれている部分もあり、ネガティブな評価のみとは考えない。思考を固定化せず、今後も希望に沿った支援について可能性を探っていきたい。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	献立を書く、食器の片づけ等前後の作業に加えて、調理や配膳に参加していただく取り組みも可能な限り実践している。季節の食事などを話題にだすことでより楽しみに繋がるような支援に努めていきたい。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の食べたいものや好みを頻回にメニューに取り入れるなど、昨年より進んだ取り組みがみられる。3食の調理も継続され、片づけに参加してもらい、個別性に合わせた対応など、可能な取り組みも継続している。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の状態に合わせた量、形状、内容を心がけている。基本は家庭料理だが、美味しく食べられることを目的として、市販の介護食品等も取り入れつつ、バランスが偏らないよう支援している。			

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度の入居者が多く、開口やうがいすら困難な事が多いが、段階に応じて物品を揃えて支援している。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔ケア専門職の介入はないが、毎食後のケアに取り組んでおり、さらなる充実のために外部研修を受ける機会を期待する。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調にも関わることで個性が高いが、ほとんど夜間安眠が保たれ安心して過ごされている。眠れない時も安心して過ごしていただけるような対応について話し合っている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一包化や解り易い管理を行うことで日常の支援は行うことができている。個々の職員の薬への理解度にばらつきがあり、課題を残している。研修や学習の機会を増やす必要性がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一包化された薬を服薬タイミングと利用者ごとにわけて事務所で保管し、服薬記録をつけながら支援している。担当を決め、食事の時に一斉配薬をしないなど誤薬を防ぐ工夫をしている。 変更時は日誌やミーティングで伝達し共有しているが、薬に対しての職

							員の知識の差は感じられる。安全な取り扱いを継続しつつ、職員が学びの機会を得ることを提案したい。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かつてのように家事をしたい、して欲しいというご家族の希望がある方についてはできるだけ参加していただくように努めている。ドライブ、買い物、書道、園芸など楽しみの機会を増やし、柔軟に提供できるように努めている。	コロナ対策で思うようにできなかったのはやむを得ない。家事参加や体操など、できる事、意欲に合わせた支援が行われることを期待する。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	まだコロナ禍の影響があるため十分ではないが、ご家族との思い出の地へ一緒に行ってみる、自宅へ帰ってみるなどの試みは再開している。	35に同じ		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	金銭の所持を希望される方がおられる場合はご家族と話し合いの上支援している。使用は希望される方がおられず、実施していない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年賀状のやりとりはあるが、日常的に文字や手紙を書く事を好まれない方が多く、ご本人の負担がある現状。今後可能性があるか検討していきたい。			

39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>できるだけ安全性を保ち、シンプルでわかりやすい館内を保つよう心掛けている。個別性に配慮しつつ快適に過ごせる席配置を検討したり、季節を感じられる装飾、取り組んだ書道や工作物などの展示などの支援を行っている。</p>	/	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>施設内は木目調でやさしい色調となっている。共有リビングには大きな窓から日が差し込み、デッキにはプランターに植えられた花が見える。ソファで寛ぎテレビを見たり、対面キッチンで調理の様子をうかがうこともできるなど、生活で心情を動かす空間となっている。令和4年夏に経年劣化で腐食したデッキを取替え、安全にリフレッシュできるようになった。</p> <p>室温計で温湿度をチェックしながら窓の開閉やエアコン、加湿器で適切な空気循環、管理がされている。</p>
----	---------------	--	--	---	---	--	--

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>今現在の言葉として思いを伺うと「家に帰りたい」という希望の方が多い。しかし「もしも自分が認知症になったら」という話を伺うと「家族に迷惑をかけたくないので施設に入る」という回答をされる方が複数おられることや日頃の関わりから得られる情報を総合すると、今の過ごし方と発言に多少の乖離があったとしても、それが全く本人主体ではないとは言い切れないと感じている。評価が非常に難しい。</p>	/	/	/
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>かつての生活歴や習慣からヒントを得られ、できる範囲で再現することで喜びが得られる方については積極的に支援している。逆に困難や辛さを招く場合は無理のないよう個別の配慮をしている。</p>	/	/	/

42		<p>本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている</p>	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>かかりつけ医との関係性を途絶えさせず、訪問看護ステーションと連携している。訪問診療や通院を支援し、希望があれば看取り迄含めた長い支援ができるよう情報共有や研修を行いながら努めている。足りない部分もあるが引き続き総合Aと評価したい。</p>	/	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>入居歴が浅く日々の生活状況について模索中の様子も見受けられるが、全体的に体調等も整っており、本人の状況をもとに支援を受けられている、期待に沿っていると思われる。</p> <p>かかりつけ医の訪問診療、通院も支援されており、連携する訪問看護ステーションが24時間体制で相談に対応、さらに週一回は健康観察に訪れ、一人一人の情報を共有して介護を支援している。</p>
43	生活の継続性	<p>本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている</p>	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>「自分のペース」についての解釈が難しいところだが、無理の少ない生活介護が受けられている状態を良しと捉えると、ある程度実現できていると思われる。No40と同じく、かつての生活と今のご本人の状態のバランスを考えると再現がベストではないこともあり、評価が難しいところ。総合Bとしたいが、引き続き課題を有していることを意識していきたい。</p>	/	/	/
44	生活の継続性	<p>本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている</p>	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>仏壇やアルバム、人形等、馴染みのものを持ち込むことは自由としており、持ち込んでおられる方が多い。なじみのものを持ってきてしまうことで、逆に不安になられる方、破損の可能性がある場合は調整しているが望まれば妨げるものではないので総合Aと評価したい。</p>	/	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>馴染みの物や大切にしている物を自室に持ち込むことが可能である。本人の心身の安寧につながるものについて、状況を鑑みつつ家族と共に考えつつ、我が家、我が部屋となるよう努めている。</p>
45		<p>本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができる</p>	<p>A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>引き続きコロナ禍のため、外出に関しては制限せざるを得ない状況が続いているが、馴染みの美容院に行く、ドライブや散歩ちょっとした買い物などは再開</p>	<p>これまでが難しかったのはやむを得ない。新年度、計画している行事なども含めて少しずつ再開して行けばよいと思う。</p>	/	/

46	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	D. ほとんどできていない	できている。地域の行事も再開されてきたので、今後は拡大していきたい。	35. 36. 45 に同じ		
		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない	昨年度に比べて、できる範囲を見極めながらの家事作業は格段に増加した。職員で話し合う機会も複数あり、意識づけや学びの機会が増えることと比例して増やしていけるものと思われる。さらに今後の可能性を広げていきたい。			
		D. ほとんどできていない				
47	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている	重介護度の方へは食事や入浴の時など、職員は声をかけて表情を読み取るように心がけている。体操やレクリエーションを増やし、軽介護度の方の活動場面も増やす取り組みを行っている。職員の話し合いの場に偶然通りかかった方に参加していただくこともある。今後はさらに充実を図りたい。		A. 十分にできている	外出を伴う個別支援も再開され、入居者同士のコミュニケーションが増え、家事やドライブなどの支援も行っている。重度の入居者に対しても声掛けして、表情などからくみ取る努力を行っている。
48	本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている	外部評価時に「このホームの中が小さな地域ではないか」という視点をいただいた。開設当初よりホームを自宅だと思っている方はほぼおられず、隣室の方はご近所の方というイメージで社会性を持って付き合っておられることから、その考え方に賛同し、実際の近隣住民との関りは依然難しいが、「自分なりの交流」として評価しても良いのではないかと考える。			

49	総合	<p>本人は、このGHにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている</p>	<p>A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>昨年同様に「家族に面倒をかけたくない」という意向の方が家族と別居しつつも安定した生活を慣れ親しんだ職員と過ごせたとすると一定の評価はできると考える。コロナクラスターや複数のお看取りなど様々なことがあったが、新しく入居された方々との関係を深めつつ、よりよいケアを目指していきたい。</p>	<p>運営推進会議開催後、アンケートで投票実施。12枚配布（複数参加のご家族は1枚配布）12枚回収</p> <p>コロナ禍の影響がまだ残る中で、永眠による入退去の多い一年になった。新しく入居された方の生活がよりよいものになるよう、試行錯誤していることが会議などで伝わっている。今後も家族や関係者と連携をとって支援を続けて欲しいと思う。</p>	<p>A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>引き続き職員の入れ替わりがほとんどなく安定して長く勤め続けているという環境下にあることで、ホーム全体が落ち着いて運営されている。</p> <p>馴染みの関係が続くことで入居者や家族とも安定した関係を築くことができ、家族、本人の安心の日々につながっていると評価できる。</p>
----	----	---	--	--	---	--	--